

電気料金による電力使用抑制効果に関する実証試験（結果）について

1 要 旨（目的・結果）

電気料金による電力使用抑制効果の実証を目的として、昨年 7 月～9 月に夏季ピーク時間（13～16 時）の料金が高い仮想料金メニューを設定した実証試験を実施しました。

その結果、実証試験モニターのピーク時間の電力消費量は、実証試験に参加していないお客さま（比較グループ）と比べて、時間帯別の料金の効果で、2.2%～9.4%程度の減少が見られました。

なお、緊急ピーク料金の効果によりさらに追加的に 6.3%～7.3%程度減少となりました。

今後、実証試験で得られた知見は、お客さまニーズ、受容性等を踏まえ、今後の料金メニュー検討の参考として活用してまいります。

2 実施概要

(1) 対 象

1,000 件程度（自動検針設置済の集合住宅のお客さまの中からモニターを募集）

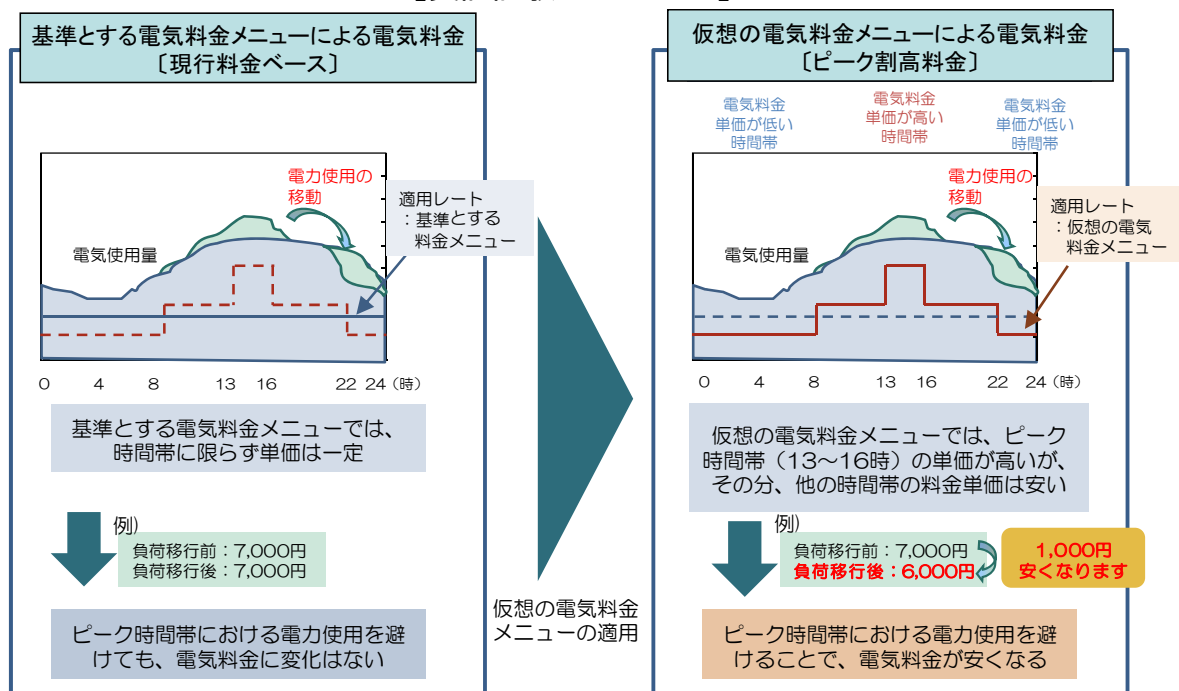
(2) 実施期間

平成 24 年 7 月 1 日から平成 24 年 9 月 30 日まで

(3) 試験内容

- ・ モニターに 2 種類の料金（現行料金ベース、ピーク割高料金）を提示
- ・ ピーク抑制等による料金低減メリット（現行料金－ピーク割高料金）をインセンティブとしてモニターに支払い

【実証試験のイメージ】



〔参考1〕 実証試験適用料金（モニターは6つにグループ分け）

《現行契約が従量電灯の場合》

(円/kWh)

		現行料金 ベース	ピーク割高料金		
			B 1	B 2	B 3 [緊急ピーク]
ピーク	緊急	20.00	33.40	51.50	126.00
	その他				37.00
デイ				20.00	20.00
リビング			20.00		
ナイト		8.00	8.00	8.00	8.00

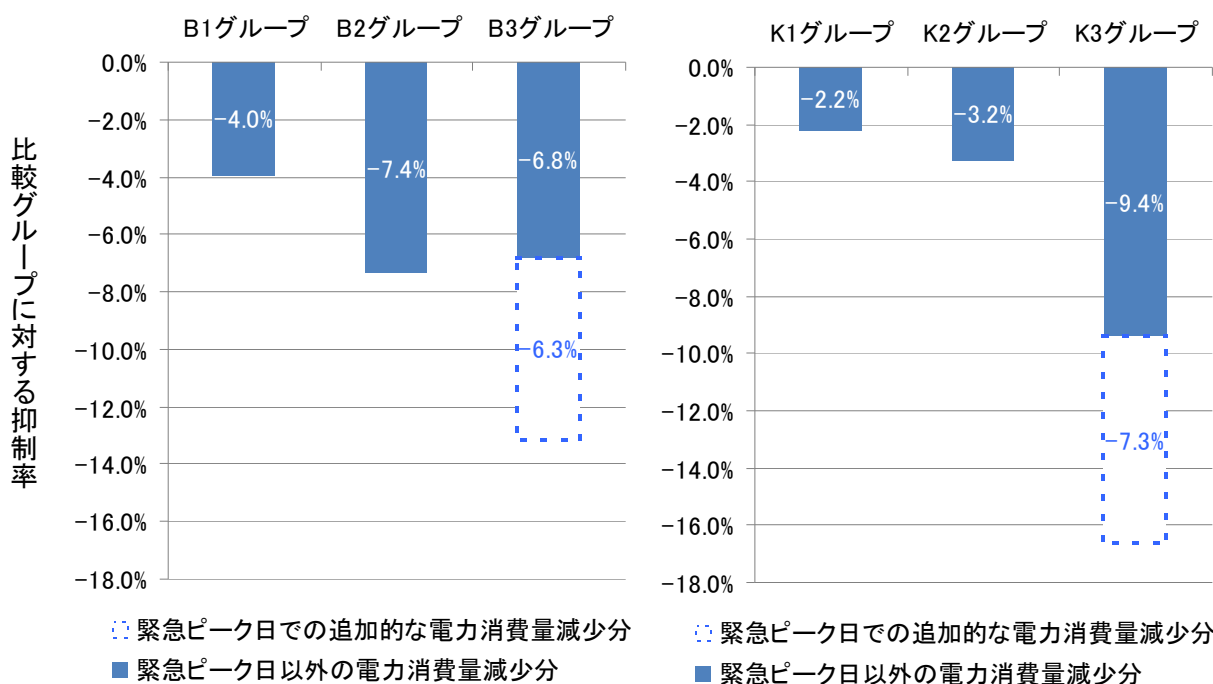
《現行契約が季時別電灯の場合》

(円/kWh)

		現行料金 ベース	ピーク割高料金		
			K 1	K 2	K 3 [緊急ピーク]
ピーク	緊急	33.40	51.50	80.70	126.00
	その他				37.00
デイ				13.00	20.00
リビング			20.00		
ナイト		8.00	8.00	8.00	8.00

ピーク：13～16時、デイ：10～13時、16時～17時、
リビング：8～10時、17～22時、ナイト：22時～翌8時

〔参考2〕 各グループのピーク時間の電力消費量削減効果



※ 上図のようにピーク時間の電力消費量の削減効果は観察されましたが、ピーク時間帯から他の時間帯への負荷移行（ピークシフト）については、明確には観察されませんでした。